



1年次 地元企業交流会

地域の企業を学びました



鶴岡市の鶴岡中央高校(兼子由香校長、生徒683人)で27日、「企業交流」が行われ、1年生が地元企業の

鶴中央1年生 25社と 地元企業の特色学ぶ交流

各担当者から会社の特色を学んだ。

地元企業の魅力を知る機会にしておらおうと県庄内総合支庁と同校がタイアップして毎年企画している。

この日は製造、医療、福祉、金融、サービスなど25社が参加。1年生234人が8つのグループに分かれて各企業担当者から仕事内容や福利厚生面などについて聞いた。

東北エプソン(酒田市)のブースでは、コロナ対策として在宅勤務を導入したことなどを説明。会社が求める人材は「創造と挑戦の

地元企業の担当者から仕事内容などについて説明を受ける生徒たち

姿勢で自立自走ができる人」
「周りとコミュニケーションが取れる協調性も大切」と話していた。

伊藤果穂さんは(16)は「今回の企業交流では将来について考える機会になった。これまで地元企業の名前は知っていても、どんなものを作ったり、どのような仕事をしているのか詳しくは分からなかった。担当者の話を聞いて理解できたと、将来、就職する場合には役立てたい」と話していた。